

附表 4 自由記述回答 2

問 30

(1)【現在 50 歳代の方におたずねします】あなたのこれまでの人生を振り返って、考え方が変わった出来事や、生き方に大きな影響を与えた出来事がありましたか。それはどのような出来事で、あなたにどのような影響があったのかお聞かせください。

50 歳代スタッフの回答 (主な回答を抜粋して掲載)

1. 離婚。仕事ばかりではダメだ。仕事より私生活だと思えるようになった。
2. 幼馴染が、すい臓ガンで 40 才で亡くなった事。彼は地元の大手電力会社に勤めており、管理職になりたいと、あまり家庭を気にせずいつも遅くまで必死に働いていた。初めての子供が出来て半年で亡くなった。忙しくて病院にも行けず、発見が遅れたと聞いて、自分も同じ様にならない様に、仕事一辺倒にならない様にしている。又仕事もやるけど頑張りすぎない様にしており。困った時は信頼の出来る上司に相談をする様になった。
3. 友人が早く亡くなったとき：時間を無駄にせず、やろうと思ったことを一生懸命やるようにしないと、もし早死にするとなくなったときに後悔するのでは、という意識が芽生えた。うつで休職した後：人の言いなりになるのではなく、理論武装して、自身を守らないといけない、自身を大切にしないといけないということを、だんだんと思えるようになってきた。
4. 友人、知人が、心筋梗塞や脳梗塞で若くして亡くなった。仕事も大事であるが健康第一に考えるようになった。いつ自分もそういう時が来るかもしれないので、一日一日を大切に過ごす事と心掛けている。仕事も家族を大切に悔いがないように生きるようにしている。
5. 娘が生まれた事。自分がどんな事になるうとも、この子だけは守っていくんだという決意を持たた。
6. 本を読んだ時、考え方が変わったり、対応方法が変わった。
7. 母が亡くなり父が一人になり、実家に戻らなければならなくなったこと。通勤時間が片道約 2 時間となり、父の世話(介護)をしなければならなくなり、仕事の間にも家の事を考えなければならなくなったこと。
8. 物流子会社に出向した際、管理者以外は全て非正規雇用の職場で、自分も含めた全ての従業員の労務費コストを反映した、職場収支を日々、月度、年度で明らかにする必要があった。自分の労務費コストがいかに高く、そのコストに見合う仕事が出来ているか考える様になった。
9. 部署移動+教育出向でいろいろな部門へ行き それぞれの部署で考え方の違いがいろいろわかった。特に品質保証部への教育出向はお客様が本当の一般ユーザーのため、対応のやり方等学んだのは一番良かったと思う。お客様第一の教えが身に付いた。但し、業務は過酷だったが。
10. 父母の介護や死。自分がボケたり要介護になったり突然死んでも家族が困らないようにしておかないといけないと思いつくづく思う。
11. 父親との死別。相談できる人が少なくなり自分自身で考え、判断をすることが必要となった。
12. 父の他界、母が認知症を発症。それまでの別居生活から、同居を考えるようになった。勤務地の異動希望を出し、現在の職場に勤務。

13. 父の死去。使い切れないほどお金を蓄えても仕方がない。リタイヤ後は余生を楽しむべき。
14. 不景気になるたびに繰り返される不明瞭な人事異動。会社（部署）は社員を守れない、仲間はいても基本は独立しているという考え。
15. 病気（会社でおれ、入院、休業、）仕事をかわり（役職も）、体力の必要な仕事が困難に
16. 入社当時、当時から現在に至って残業工数の使い方について、社会が適切に制限していただいたおかげで生活に余裕が出来た事はたいへん感謝しており、余裕が出来た分家族への時間が多くなり家族の為に今後の生活を考える事が出来ました。今まで出来なかった趣味など、今から始めるゆとりが出来た事も大きな喜び。生活する上での活力にもつながっていると思います。仕事だけで生きてきた父に比べたらとても贅沢な人生をすごしていると感じます。おかげで近年両親の看病にも理解をしていただいた職場・会社には感謝しきれないくらいです。今は自分の健康第一の生活に向けて考えられるようになりました。
17. 入社以来、自分の環境が変わったときに大きく考え方の変化点があり。特にリーマンショック時に定時退社が増え余裕時間がある生活環境が変わったとき、これまでできなかった読書、資格や IT 関連の勉強に時間を費やすことができ、結果、自分自身への情報インプットとなり、公私共に活力が湧いて、仕事上も明らかにアウトプットの質が良くなった。それ以来、自分磨きを大切にして情報インプットに努め、アウトプット向上させる意識になっている。
18. 同期や後輩が先に昇格していった事が一番大きい出来事です。自分ががんばって成果を出して来た自負はあったので、かなりショックな事でした。モチベーションを保つ事ができない時期がありました。
19. 働く会社が変わった時、職場が変わった時、今までの考え方や、習慣が通用しなかったり、仕事すすめられなくなったりした。いろいろな場面に遭遇し、相定外を相定内にする努力をしました。いろいろな価値感に出会い、いろいろな考えを持てる様になって、余裕が出来た。困難な出来事にも柔軟に対応できる様になったし、いやにならなくなった。いろんな知り合いが増えた。織機の良さと悪さが両方見れる様になった。
20. 転職は、仕事の視野が大きく広がりましたが、家族の犠牲もあり、家族の支えなくしては仕事は成り立たないことに気付かされ、仕事に対する考え方が大きく変わりました。（仕事中心→家族中心）
21. 転職し当時の A 社へ入社した事と、技能職で採用されたが、営業職に転部し職場環境が大きく変わった事。お客様と直接関わる事から対人関係で苦労した。
22. 直近の 1 年半、職場におけるストレスで精神疾患を患い、さらに長年の飲酒による急性肝炎を発症、入院、それによる肝硬変の発症。もともと仕事最優先の生活のつけが 50 才過ぎてでてきたと考えている。急性肝炎は命を落としかねない状況だったこともあり、自分がどう生きていくかを考える機会となった。仕事による自己実現と他者の承認を得たい気持ちが非常に強かったが、それらを小さいことだと思えるようになり、気持ちが楽になった。
23. 中国、インドで現地人といっしょに仕事をし、その地域を毎日見てきた。⇒①自分の生活がいかに恵まれているか、②世界に存在する格差、貧困、習慣③人間の多様性について考えさせられ、自分の小ささを思い知った。
24. 中学生の時にガンで亡くなった友人がいました。最期まで勉強を頑張っている姿に、人間とは何か？とかどのような生き方ではなく、どのような死に方を考えるようになった。

25. 大病を患った時に「人」について考えることが多くあった。また自身の今後の行動についても考えることが多くあり、多少のことでは動じなくなったと思います。
26. 大学入学 自分の得意な事が明確になった。結婚 社会的責任を実感した。昇進 部下やグループとの関係を意識して仕事を行う。
27. 体調を崩し約半年間の休職をしたこと。自分が全ての業務に対し一生懸命にならなくても、他の人が上手く回していけることが解った。自分は、もっとやりたいことに集中しても良いのだと思える様になった。
28. 生き方に大きな影響を与えた出来事：別居 家族と一緒にいる事が、自分の負担になっていた事がよくわかった。別件する事により自分の自由な時間が増えやりたい事が出来る様になった。
29. 世界で初めての仕事を成功させた時、感動して涙が出た。今後もこの様な仕事をしていきたいと思った。
30. 身近な人の突然の死。人生いつ何が起きるか分からない、とつきつけられる思いになった。
31. 新人時代に、仕事で大きな失敗をした時、職場のメンバーや、関係部署、仕入先様に助けられた事が有り、この事により「チームワーク」や「感謝の気持ち」の大切さを学んだ。以降の業務において、仕入先様を含む関係者の困り事に対し、自分事としての対応が行動指針となった。
32. 信頼できる先輩方と出会った時から。
33. 職場の方針（実態）が本質からずれており、その状態が会社にとって非常に良くないと考えた時期があった。職場に改善を提案し、上司に方針と実態の乖離を伝えたが、受け入れられなかった。職務に対して理想を高く持つべきだと考えていたが、会社の実態は自身の考えているものではないことにその時点で気付いた。今は自分を守らなければ食い潰されると感じており、上手に立ち回りつつ、他者認知をずいぶん気にする様になった。（具体的には村八分状態になり職場異動した。）
34. 職場の異動で、違う考え方や能力を持った人と関わった時、素直に見習うべきだと考えた時と、自分には真似できないと思う時があった。
35. 上席になったこと。部下への指導など、自分がきっちりと仕事ができなければ、伝えることもつたえられない。
36. 小学校低学年の頃に自身の死を覚悟（病死...実は勘違い）した事。それ以降今できる事を自分が納得できる範囲で過ごす様になった。
37. 出来事：結婚、子供が産まれたこと。影響：自分の都合主体で行動するのではなく、家族の都合・思いも考慮した私生活に変わった。これとともに、仕事でも、周囲メンバーにも家族がいる前提で考えるようになった。
38. 出産したことにより、日本の未来や環境について他人事だと思えなくなった。家族の将来のために必要なお金を得るという働く目標が一つ増えた。
39. 出る杭は打たれる・・・自らを抑える。
40. 叔母が亡くなり、空屋となった古い家を親からゆずりうけて自分でリフォームをはじめた時。親が喜んでくれて親孝行の大切さを身にしみました。
41. 主任となった時の上司に、仕事は過去の方法のまねではなく何故この仕事があるのか、どうすべきか自らの考えを、ちゃんと持つ事の重要性を学ぶことができた。仕事の見方を変えることとなった。
42. 主人が亡くなった事。人生について考え、何が起きるか分からない。今を大切にすること。

43. 社外ボランティア活動（あすでも究めるプロジェクト参画）で、ふだん接する事のない子供達との活動で社会貢献活動の必要性を感じた。（会社以外の人とのふれあい）
44. 自分の理想とする上司との出会い（思い、志、気配りなど）人として、会社員として尊敬できた。
45. 自分とは考え方の誤う人と合った時に以前は自分の意見を通そうとしたが、今は他の意見を合せた落とし所を考えるようになった。
46. 事業部間の異動の製産職場から、営業職場に変わった。製産職場では、日々の製産に追われ、自分の生活を振り返る心のゆとりすら無かった。営業職場では、自分造りが大切であり振り返りをした際に、自分のライフワークはこうだということが見えてきた。
47. 私は、生産技術者として、工場の生産設備調達、生産工程改善の仕事に従事してきました。30代前半ごろまで、工業製品を大量生産することが世の中のためになると思うことができず、仕事に対し意義が見出せませんでした。しかしバブル崩壊以降の不況の中で、このままでは、仕事がなくなり、工場がつぶれるかもしれない現実と直面した時、工場の仲間とその家族のために、競争力ある工場をつくるのが自分が世の中の為役に役立つと思うことができ、意義を見出して仕事に取り組むことができる様になりました。
48. 私の妻が40代の時に病死をして、2人の子供を育てていく事になった。自分の家庭での立場が変わり、母親がわりも行うことになった。この事を基に生活が一変して、仕事・家庭との両立で大変な事期だった。自分の中の考え方（仕事に対するもの、家庭に対するもの）が他人の事（相手の事）をまず考えて全て行うようになった。
49. 子供達が次々就職していった時、これまで考えてもみなかったが、何のために働いているのか、生きているのか...と思うようになった。親が亡くなった時、心底自分をわかってくれる人がいなくなってしまった喪失感があった。
50. 子供の頃から、学校の成績や受験などの競争社会で生きてきて、会社に入っても、他人に対して自分を比べて生きていたが、30才を過ぎた時、そんな自分に疲れたと感じ、夏休みに、一人北海道を自転車キャンプ旅をしました。北の大地の自然や人情にふれ、他人と比較して、一喜一憂せず、自分は自分らしく生きるということを感じ、気持ちが楽になったことが、人生の大きな出来事です。
51. 子供の結婚、孫の誕生：人生、いいこともあるんだなと明るい気持ちになった。
52. 子供のトラブル...家族との接し方、子供との接し方
53. 子供が習い事を始めた頃のリーマンショック、大手メーカーの倒産など、想像していなかった出来事により、右肩上がりや終身雇用の安心感が揺らいだ。技術の専門業務からマネジメント中心の業務に移行して10年以上経ち、自分の価値としての専門性が弱くなったと感じ、将来に不安を持つようになり、世の中の動向や技術動向に対する意識が強くなった。
54. 子どもが生まれた事、「世の中は、廻っているのだ」ということを実感した。
55. 仕事中に交通事故で、横断歩道上車にはねられ身体障害12級となった。⇒会社は何もしてくれないと強く認識した。
56. 仕事上の話となるが、当時の上司と共にラインの改造工事に立ち会っていた。稼働日前日の夜9時過ぎに良くない結果が出てしまったが、上司はそこからメーカーと共に対策を考え、深夜まで必死に対策を講じた。決して逃げずやりきる姿勢が非常に強く私の心に残っており以降仕事に対する根源となっている。
57. 仕事上の失敗（クレーム）以後、物事を慎重に考えるようになった。
58. 仕事の業種を変えた時、新しい物の見方、考え方を学び自分自身の生き方、考え方に幅ができた。その後の生活に活力がでて、つらいが楽しい人生になった。

59. 阪神淡路大震災、いつ、どこで災害にあうかわからないものだ実感し、地震に対してできる範囲で備えるようになった。
60. 今の会社に転職するきっかけとなった前の会社の経営破綻。前の会社は人間関係も良好で仕事も気に入っていたのでこれがなければ転職というのは考えてもみませんでした。形式上は自己都合での退職となっていますが、実質は退職を進められた（いわゆるリストラ）ことで、会社や仕事に対する価値感や考えが大きく変わりました。好きな仕事だけで生きていくことは難しいと感じました。
61. 工場、仕入先での納入、生産遅れについて、現地現物現認で対応決定したこと。とにかく早く現場で確認すること。
62. 工事業務に携わり色々な人に出会う事ができ、一緒にシステムを作っていく楽しさを味わう事ができた。
63. 現場勤務から本社勤務に変わった。毎日同じ業務ではなく、改ためて多くのことを学んだ。
64. 現場から本社勤務に異動したときに、全く知らない世界での職種となり、なんとかやりきったので自信となりました。周囲にも頼られたり、認められてうれしく、職場の力になれたと感じました。
65. 結婚と子供が出来た時お金と時間の大切さがわかり、週末の時間及びお金をどう使ったら有効か考える様になった。
66. 結婚して子供が産まれた事。初めて人のためにがんばって働こうと思った。
67. 結婚：自分以外の人に対する責任が生じた。子供が生まれた：上記の思いがより強くなった。海外赴任：生活環境が一変した（言葉、利便性...）
68. 結婚：家族の大切さと実感し、働く為の目的を見つけた。子育て：さらなる働く意欲の向上
69. 結婚。家族の幸せを考える。
70. 結婚、子供が生まれた事⇒家庭を持ち、家族が増える事で、自分の責任が重くなったと思います。
71. 結婚、妻の出産。家族が増えた時に”自分だけではなく家族の為に”という気持ちになった。
72. 結局、考え方は変化せずそのまま。
73. 業務委託契約の業務をしたことによって、発電所運転開始に供う業務委託を円滑にできた。
74. 去年、メンタルっぽくなった。これを機に会社に貢献するために働いていても、自分を守ることが必要と痛感した。今までの会社中心の生活から家族、自分中心に変えた、これにより周囲の人とのつながりも出来て良かった。ボランティアなどにも参加しようと思っている。
75. 技術職で採用され 24 年間従事してきたが営業職に変わった。しかし、技術職で培った知識を生かせる営業職であったため。さほど苦にはならず、また新しい視点で物事を見ることができ良かった。
76. 基 3 に昇格した時。仕事に対する考え方が、それまでは、自分が成果を出せばそれでよいと考えていたが、昇格後は、会社経営側の考えを、部下にうまく伝えて、いかに成果につなげるかというところを非常に考える様になった。
77. 関連会社に向出したときに人の扱いがひどい場面を経験したこと、自分もしくは周りの人間の防御を意識するようになった。
78. 学生時代、ジャングルにて腸チフスに罹患 →適者生存

79. 海外駐在し外から日本を見た時に、これまでは狭い社会に居た事を痛感した。日本は物価も安いと給与水準も低くアジアの小国に思えた。時間の使い方についても、長時間勤務を好まず、メリハリのある働き方が実践出来ており感心した。帰任後ライフワークバランスを強く意識するようになったが、元の生活に戻った。
80. 海外単身赴任（4年間）。4年間子育てに協力出来なかったため、帰国後に子供達から遊んでもらえなかったと言われております。家庭と仕事の関係を見なおす機会となりましたが、帰国後もあまり子育てに協力できておりません。
81. 海外他社との協業、および、自身の海外赴任考え方や価値感の違う人達と仕事をし、方向性を定めていく中で、相手を尊重し、様々なものの見方、考え方を受け入れることが出来るようになった。
82. 海外出張や出向、考え方のちがい（仕事とプライベートに対する）視野が広がった。
83. 海外支援（30歳代、40歳代）と海外赴任（40歳代）です。海外支援では生産拠点の立上げ準備を体験しましたが、日本とは違う価値感や仕事の進め方に接し、物事を多面的にとらえる事を学びました。海外赴任では、生産事業体を運営する経験をしました。日々いろいろな問題が起き、現地メンバーとともに解決して、皆が納得するまでしっかり対応することを学びました。現地、現物で、関係者が喜ぶことを目指して仕事を進める今の業務スタイルを確立するきっかけになったと思います。
84. 海外の会社の人と仕事が出来た。いろいろな人の考えと仕事のやり方があり、自分の世界の小ささがわかった。仕事以外の知識が社会人として必要であることがわかった。
85. 会社生活における出来事だが、役職がメンバーからマネージャーになったとき。業務プレイヤーの立場から管理監督する立場で責任を負う業務へと変わり、開発現場の第一線から身を引いたように感じた。また顧客のため、会社のために加えて部下の成長を考えるようになった。部下の成長を待つ、結果報告を待つという待つことの大切さや、方針や自分の考えを伝える能力の大切さ、人材育成の大切さと難しさを感じ、以後向き合い続けている。
86. 会社としても問題なく、職場でも人間関係に恵まれ、仕事内容も充実してして残りの会社生活も平和にすごしていけると感じていた昨年（2018年）私の知り合いが会社からイジメを受けたような状況になり失望した。パワハラと受け取れることもあり企業倫理相談窓口で相談したが問題なしと言われ、病んででしまいそうになったが何とか復活できた。それ以来会社に対して期待もなくなり働く意欲もなくなり、という状態になった。残念。企業倫理相談窓口も法律的に問題がなければ「問題なし」。当人は顔面神経痛にまできたのに事実確認さえもしない。何のための窓口なのか？疑問。結局、一連の出来事で（繰り返しになるが）信用も期待も誇りもなくなり、失望のみが残った。下には厳しく上には優しいというありがたい体制も良くわかった。世の中こんなものなのかなと改めて悟った出来事でもあった。おかげで強くなった。
87. 家族が大病になることが多く、心配事が絶えませんでした。ですので、家族の負担のため、仕事と家族の面倒を見るだけで自分の人生について深く考える暇がありませんでした。50代になりようやく自分の事を考えることができ、健康とか暮らしの重要さを認識しました。これからは私の人生と思い、思う存分、仕事と家庭を満喫したいと思います。
88. 家族が重大な病気になった時、自分が家族を支えなければならないと強く意識するようになった。
89. 一時期、社外へ出向する事となり、元職場とは、委託先として連携して仕事をしていましたが、仕事の分担、切り分けがうまくいっておらず、出向先の部下が多残業で苦しんでおり、私が責任者として委託先（元職場）の上司（室長）、メンバー（GM）に助けを求めた

	<p>が冷めたく突き離された。それまでは職場の上司、メンバーを信用・信頼して仕事をしてきたが、これ以来、そこまで人を信用しなくなった。もちろん信頼出来る人は、何人かは居ますが、所詮みんなそんなもんです。</p>
90.	<p>育成しようとした部下に裏切られた。信頼していた上司がバックアップしてくれなかった。人間不信に至り、未だ解消されない。自分よりスキル・知識レベルの低い者に対して、積極的に関与する事を避ける様になった。会社では業務上必要最少限の人間関係のみを維持している。</p>
91.	<p>やはり結婚そして子供が生まれた時、家族を養っていくという責任感を強く感じた。この時は仕事は忙しかったが、家族が最優先だと思った。</p>
92.	<p>出向した事。外から自社を見ることで、自社の良いところや悪いところが良くわかった。</p>
93.	<p>とある人の言葉「最後に笑えば良い。否俺は途中も笑っていたい」プロセスを大切にできるようになりました。</p>
94.	<p>かつての上司が、上役に対し、処分も辞せず意見具申している姿は、私の生き方に影響を与えた。こんな上司の下なら、苦しい業務であれ、楽しく戦って行けると思った。</p>
95.	<p>アメリカ駐在が考え方を大きく変えたと考えています。仕事よりも家族を大切にすること、日本では考えられないですが、少なくともこの思想文化は、私には受け入れやすいものだった。成果主義、昔の長く働けば報われるということではなく、いかに定時内に完了するのが重要です。</p>
96.	<p>アーミースタイルを好む上司との出会いでそれまでやって来た事をほぼ否定された時、とにかく仕事が面白くなくなりました。毎日、その上司の顔色を見ながらのマネジメントしか行えず、意見を言っても受け入れられずこの会社に入って一番の最悪の出来事でした。それなのにその上司はどんどん昇格をして行き私はやる気を失いました。</p>
97.	<p>出向、仕事のやり方や、海外出張で 911 テロで帰れなくなった時の対応など色々教えて頂きました。</p>
98.	<p>生産技術開発で、高速回転時潤滑不足でベアリング破損対策で悩んでいた。知見者に助言をもらって解決したがこの出来事で自分の取り組み姿勢が下記の様に変化した。(i) 自分の担当業務に関連した分野で誰が詳しいのか普段から周囲を観察、回覧される生技報告書等に良く目を通す。(ii) 人に聞く時のマナーとして先ず因果関係の整理と要因分析を自分なりに考え、困り事をピンポイントで教示頂く。(忙しい中時間を割いて頂いている。)</p>
99.	<p>50代半ばで定年後を考えた時、今までの経験、知識を活かせる仕事をしたいと思い、社内公募で異動した。新たな領域で未知の部分も多いが以前より充実感はある。</p>
100.	<p>50歳代になってから、初めての単身赴任を伴う経験の乏しい分野の職場に異動となり、さらにそこから業界団体に出向となった。特に出向団体では技術系(自身は事務系)の職場で、大変な激務であったため、健康を害してしまった。それまで、自分なりに会社に貢献してきたつもりだったが、会社人生の最後の方で、本人の望まない、立場に置かれたことで、会社への大きな失望を味わった。</p>
101.	<p>40代後半、50歳になってそれぞれ、初めての業務(今まで経験したことのない)を担当しました。結果、精神的につぶれてしまいました。しかし、途中で他の仕事に移ったわけではなく、一応業務は最後まで完了させました。これにより新しい経験により、世界が広がったということ、が良かったと考えられますが、もっと若いタイミングでこれらの経験ができていたなら、もっと良い人間になれたのではないかと後悔もしています。</p>
102.	<p>3年間の海外(中国)出向により、日本および日本人の良さを再認識するとともに、外国に対する偏見を持っていたことを知り、日本が遅れていることも多いと感じた。また、言</p>

葉の壁はあっても理解しあえるし、グローバルな時代にあつては、積極的なコミュニケーションが大切だと感じた。
103. 38歳で課長昇格直後、グループの運営がうまく出来ず、メンタルから休職。他人の期待に追いかけるより、自分がやりたいこと（社会が求める）を追いかけるように変わっていた。「追われるシマウマ、追うライオン、走る距離は同じだが、気持ちは大違い」と考え、追われるより追うようにスタイルを変えた。
104. 30代前半の頃、直属の上司ではなかったが、同じプロジェクトで親身に相談に乗ってくれた方がおり、社内だけでなく社外の知見者へ橋渡しをして頂いた。また、課長格であっても自分で設計から評価までこなすバイタリティがあり、忙しくても楽しそうに業務に取り組む姿勢に影響を受けた。
105. 30代前半で海外駐在をした時に、責任ある仕事に就き視野が広がるとともに細部にこだわらなくなった。
106. 30代後半に組合役員を経験して、働き方について考えることが多くなった。(今で言うワーク・ライフバランス)
107. 30才ぐらいのころ、海外研修制度でアメリカの大学で学んだこと。モノを生み出していくには自由な発想と環境が大事であることを学んだ。
108. 20代後半の頃、生産ラインの立上げがうまくいかず、当時の課長とも考えが合わなかった状況において、課題をまとめ部長に報告したところ、当時の部長より「なぜ、自分が考えたことをすぐに試さないのか？何でもやってみろ」とかなり強いおしかりをうけました。そこで自分自身の考えでトライしたところ課題解決が出来、自信をつけるこしが出来ました。この出来事以降、まずは自分自身で考え、それを実行すること、その上で上位に報告、判断頂くという「仕事のやり方」を学びました。
109. ①大失敗：開発でのNGの見逃し、号試で発覚し、リカバリーの為に関係部署に迷惑をかけた。しかし、皆、汗をかいて走り回ってくれて収束できた。→見逃がさないことができれば良いが、小さなことも情報共有し、多くの目で引っかけないように配慮。②海外赴任：精神的に大変ツライ思いをした。赴任当初頼りにした日本側は冷たく、頑張ってくれたのはローカルスタッフ、考えの違いで大ゲンカもしたが、本音で話せば通じるということ学んだ。
110. ①結婚：今まで家族の一員だったが、これからは自分の家族を作っていくと思い、心が引きしまった。②子供が生まれた時：親になって、自分の子供を育てる立場になり、より一層がんばろうと思った。
111. 1990年代に現在の会社に中途採用で入社。バブルがはじけ経営が苦しくなり生産減による人員整理や配置転換により、本来やりたい業務が出来なくなった。
112. 10年以上勤務していた職場から異動したときに、今までとはまったく違う仕事でしたが、以外に楽しかったためこのような仕事も自分に向いているのでは？と思い始め、様々な仕事をするようになったことが「きっかけ」で、前向きな仕事をするようになった気がする。
113. 1. 中学生の頃親しかった女性と交換日記を交したことで、それまでおぼろに思っていたことを三つの目標として明確にし、今、それら全てを実現した。2. 米国向け車両の開発を担当し、米国人スタッフと一緒に仕事することで、それぞれの文化の壁を越えて、一つの目標を成しとげることの喜びを知った。
114. 1.ボクシング・・・これ以上熱いものは今後ないと思った。2.重大品質問題への対応・・・これ以上に大変な事は今後ないと思った。
115. ・得意先への出向とグループ会社出向での出逢いと経験、協調性と組織力通じものづく

りに対する姿勢に影響を受けました。帰任して差別化、人ごと、協調性のない組織を何とか変えたいと思っています。
116. ・全く業種の異なる他部門への異動。(→自動車部品の営業担当)・これまで経験した事がない、納期・品質等の厳しい業務を担当した事により、現職への異動後、役に立った。
117. ・数多くの上司についたが、その中でも3名の上司から多く、大きい学びを得た。①仕事の進め方②会話力③マネジメントとしての資質 ・5年間の海外赴任 過去経験のない文化に触れ、英語が上達でき、自身の世界感を広げる事ができた。これは家族含め同様で、こういう機会を与えてくれた会社には感謝している。
118. ・新人研修として東京で独り暮らしをし、親に頼らず自分で全てすること。 ・転職→得・不得手、賃金に関らず生活するために仕事を探さねばならなかったこと。 ・結婚・子供誕生後、前会社が倒産し収入がなくなったこと。 ・両親の老いによる介護、看病により、自分・妻の時間が自由にならないこと。
119. ・出来事：会社に入社した年に、父が亡くなり、その3ヶ月後に祖父が亡くなったこと。・影響：母は健在であったが、近所つき合いや、親戚とのやりとりをするようになり、勉強もさせてもらったが、自己の時間以外に、20代から時間を費やした。
120. ・出来事 新入社員時、先輩からOJTを受けた→影響・QC的な仕事の進め方が身に付き出した。(細かい話では、忘れる事がないようメモを取るクセがついた)・役員から指示を受けて仕事をしていた時→プレゼン/提案のノウハウが身に付いた。
121. ・社内では、いろいろな、部署に異動する機会があったので、さまざまな仕事の経験を経ることが出来た。・30代でボランティアに参加するため、休職しての海外生活での日本人一人きりの感かく。・プライベートでのフルマラソンに参加した時の達成感。
122. ・自身の病気→人生を振り返り、見つめ直す機会 ・尊敬できる上司→仕事に対する姿勢
123. ・自己啓発のセミナーに参加した時に、感銘を受けた人物と出会ったり、仲間ができたことで、人生に対する考え方が変わった。・最低・最悪の上司と関わったこと(パワハラや不本意な異動)
124. ・子供が生まれたこと。仕事以外に優先させる対象ができて仕事を効率的に、またかける工数を考えるようになった。・思考回路の違う部下を持ったこと。仕事のやりとりや指示を根拠や目的を明確にして行うクセがついた。
125. ・子供が生まれたこと。・自分の仕事、人生が、自分だけのものでなく、家族を支えなければいけないものであると感じました。
126. ・仕事に対し厳しい上司(年配)がいて、自分の甘さを思いしらされた。・大学の先輩にかわいがってもらい、後輩に対しての接し方を学んだ。(サークル内で)
127. ・個別案件で客先と長期間(4年)にわたって対等、対応した時・進め方、考え方が変わった。
128. ・海外出張で2W程度2回米国へ行った時。・海外の出来事(ニュース)を見る機会が増えた。外国語の勉強をする様になった。海外旅行時も人々の生活をよく観察する様になり、今何が必要とされるかを考える機会が多くなった。
129. ・会社内のセミナーで“人は人生を自分で選択している”と言うこと知り、今まで、他人のせいにしてきたことが、主体的になれるようになった。・子供の誕生...自分が守るべきものを得て、責任感を強くもてるようになった。また、人につくすことが、人の幸せと思えるようになった。(と思っている)
130. ・一般職から管理職へ立場が変わった際、自分のことだけでなく部下や部門のことを考える行動することが必要となり、広い視野を持つことが大切であると感じた。・若年時代は、

<p>体のことも気にせずがむしやりに仕事をしてきたが 40 代後半に体の不調があった。もう少し時間をさいて、詳細な健康診断をうけ体のケアをしておけばよかったと思っている。</p>
<p>131. ・やりたい仕事より、人に役に立つ仕事をする誰かが言っていた、なるほどと思った。・人の視線を気にするのはムダと本に書いてあった。なるほどと思った。・反省はしても後悔はしないとだれかが言っていたなるほどと思った。以上、そのとおりに改めた。</p>
<p>132. ・出向に行ったこと。⇒今まで社内で工作機械（専用機）の開発を行っていたが、自動車（ステアリング開発）開発として出向、いろいろな会社から出向されて来ていた方と知り合いになれた。また、知識も広がった。</p>
<p>133. ・40 歳くらいにうつで約 6 か月休職、休職後半に様々な職種の方と話す機会があり、自分の考えが固まっていた事や、同じ事象でも前向きに考える事で意欲がわき精神的にも楽になる事を経験し、うつ発病前よりも多様な考えを受け入れ、前向きにとらえる事が出来るようになった。</p>
<p>134. ・2 級の選にもれてしまったこと。人生や、家計の見直しに影響あり。・ライフプランの見積りが甘く、家計が破綻してしまったこと。</p>
<p>135. ・10 代：スポーツを通し、考え・努力する事で結果が出る事を体感。・30～40 代：努力し結果が出て人間関係がうまくやれないと、むくわれない。⇒回りの人の気持ちや考えを意識しながら生きていく。</p>
<p>136. ○就職：親からの自立で今まで以上の自己責任判断をおこない自己錬磨。○家庭を持つ（結婚、子育て）：未知の世界の体験と責任範囲拡大で人間力向上。○転職：知らない土地、人、会社文化への適応の努力のなかで自分の経験の浅さを思い知った。</p>

50 歳代マネジャー職の回答（主な回答を抜粋して掲載）

<p>1. 労働組合専従役員の 2 年での退任、自分の信念や考え方を周りの雰囲気にならなず、確り持って行動する事の重要性を思い知った。それまでは、周りの雰囲気や相手地位を見て、信用し過ぎたり、事実確認を怠る事があり、判断を誤る事があった。</p>
<p>2. 役員・お客さま、部下との厳しい対応の局面での上司の立ち振る舞いや言動、考え方を問の当りにした時。経験ですが、感謝と思ひ（想ひ）やり、そして我以外皆我師の精神。</p>
<p>3. 本社部門から現場へ異動した時。知識は有していたが、これを扱う技量を有していないことに気付いた。この時、部下に助けをもらい、技術・技量を有することができたことが、現在の自分の根幹であると考えている。</p>
<p>4. 母の死 離れて暮らして父に任せっぱなしだった。もっと仕事以外の時間や自分の時間を作って母に寄り添ってあげれば良かった。出向の経験により、電機業界、サービス業界で働くことができた経験は貴重であった。裁量もあり、自分のペースで仕事ができ楽しかった。</p>
<p>5. 部署異動した時に、周りの関係者（得意先、仕入先 etc.）が、変わった、増えた事が、自分の中では、会社に対する見方、考え方が変わった。特に仕入先に対しての責任感というものを感じられるようになりました。調達という立場になった事が大きく影響したと思ひますが、仕入先の存在と、重要性を強く感じるようになり、自分がというよりは、仕入先、関係者とどう関わり、どうしていきたいのかを考える機会が増えました。</p>
<p>6. 部署異動...未知の領域が広い事に気付き、情報収集、知識修得が常に必要と意識した。</p>
<p>7. 入社当時は体育会系出身ということもあり、先輩・上司を尊敬し、業務を教えて頂き社会人として成長できたと思う。プロジェクト活動や事業部への異動や海外出向で苦しい場</p>

<p>面もあったが、今までのキャリアを活かし同僚や上司や家族に支えられ、苦しい場面でも、何とか乗り越える事ができ、会社へ貢献できるようになったと思います。</p>
<p>8. 入社後 5 年ぐらい経過した時、製造現場から事務スタッフに職場が変更された。当時の課長は自分に対し、細かな業務指示や方策を指示すること無く、どの様な結果を期待しているか伝えてもらうだけでした。最初は期待された結果が出せずに報告にも困っていたのですが、上位に対しての責任を自らが負い、どうやれば良かったのかアドバイスを返してくれました。その様な信頼をもらったことに対するモチベーションと自らどの様に動けば成果につながりやすいかを考えるきっかけとなりました。</p>
<p>9. 入社 5 年目ぐらいの時、とある課題の進め方で「実現性」で議論をするか「正論」で議論するか迷っていた時、自分自身としては楽な方である「実現性」を選択した、しかし上司より「あるべき姿で議論すべき」と指導を受けた。確かに最初から妥協して仕事をするべきではなく、まずは「あるべき姿」を議論して、そしてどういう方向に向かっていくか判断することをこの時学び、今までの仕事のやり方のベースとなっています。</p>
<p>10. 日々の業務の中で人間としての成長があったと思う。</p>
<p>11. 特にありません（しいていえば結婚）</p>
<p>12. 得意先対応での厳しい状況を乗り越えることにより、問題解決力の向上、相手（双方）の立場を落ち着いて考えることが出来るようになった。</p>
<p>13. 同僚が通勤途上に事故にあい死亡したこと。家族や職場の方々の大切さを学んだ。</p>
<p>14. 同年代（同期）で仕事に悩み、精神に支障をきたすのを見ると、仕事が全てではないと強く感じた。オンとオフをうまく使い分ける重要性を感じる。</p>
<p>15. 東日本大震災の発生。</p>
<p>16. 転職して現在の会社へかわった事。前職とは全く仕事内容が異なり必死に働いた（休日も）。そのおかげでスキルが身に付いた。又、人との信頼関係も築くことができた。人として成長させてくれた。</p>
<p>17. 担当製品の開発後継者との思いで育成してきた部下（担当員）が、何の相談もなしに労働組合へ行く旨を連絡してきた。引き止めることが出来ず、異動となった。一生懸命に働く姿勢をみて、やる気があると思っていたが、突然の異動希望を言われ、人間不信になったように思う。</p>
<p>18. 大学進学から、専門学校進学へ変更した時、より現実を見据えた生き方になった。</p>
<p>19. 大学受験に失敗した時に、自分はそこで何をやるのか？が大事だと思えるようになったこと。また、2009 年の品質問題時に、ひとりでも救えるのであれば少しでも早く世の中に出すこと、の大切さを知った。</p>
<p>20. 大きな挫折（壁）と大きな成果（成功事例）の両輪が必要。いろいろな方々と一緒に仕事を進めていく上で人との関係を学べた事は大きいと感じます。</p>
<p>21. 大きな影響を与えられた出来事はなかったと思う。</p>
<p>22. 前例・性別にかかわらず、様々な業務を担当させていただけたこと。キャリアを積み上で、活かせることが多かった。（経験が重要）</p>
<p>23. 製品開発を経験することでやりきる力が身についた。いろんな事への対応力が身についたと思います。</p>
<p>24. 人事異動の際、異動した昇格したのには周りで認めてくれた上司がいるからであり、その方は貴方の仕事や行動に期待しているのでそのことを肝に命じて頑張ること、と教えられた。その後、異動、昇格などは素直に受け止めて力を発揮しようとしている。</p>
<p>25. 人間関係による人間不信。自分に自信が持てなくなった。ネガティブな考え方になってしまった。</p>

26. 身内の病気によりやはり健康が第一優先させるべき。また最後は頼れるのは家族であり、仕事よりも家庭を優先させるべきであると最近考えるようになった。
27. 職場の先輩の死で、仕事ばかりでなく家族も重要だと認識した。普段は頼られている認識が無かったが、もし亡くなったらこうなるのだなと思い知った。
28. 上司の厳しい指導 今思えばパワハラ系でしたが、要求内容のスジは通っていてツライながらも 3 年間めげずについていった事により、仕事に対する反射神経が激的に向上、今では感謝しています。
29. 上司からの叱咤により、とても深く傷つき悩んだ。一時期、その上司と会うのが苦痛だった。
30. 出向したとき。復帰したとき。職場環境の変化への順応に苦労した。
31. 周囲の死、今、何をすべきかを真剣に考え、限りある時間をどうすべきかをよく考えるようになりました。
32. 若い時は 1 日 24 時間みんな平等に時間があると思っていた。いつもお昼ごはんを一緒に食べていた友人が病気で突然死んでしまった時、人生は、時間は、平等でないことを確実に思いしらされた。だからと言って時間を大切にしていない自分がある。私には子供がいる。いない人に出あうとどんな人生なんだろうと思う。私は子供がいてしあわせだと思って今は生きている。
33. 社外に出向した時。(海外及び得意先) 仕事を進めるにあたって、人との関係が重要だと気づいた。それからは、常に特に他部署の人との関係を大事にするようになった。
34. 自分が信頼していた上司に裏切られた時。且つその上司は関係会社でのうのうと生きている。→全くこの会社は信頼出来なくなった。結局この会社は元々の人の名柄とヘコヘコする人間を囲い込んでいる会社に過ぎない。→今の状況では将来は無い。
35. 事故等発生の当事者となった時、上司から、起こった事は元に戻すことはできないが後進が同じ間違いを繰り返さないよう教えられ、以降は自分の失敗談を部下につつまかくさず伝えられるようになった。
36. 子供が発達障がいと分かり障がい者についての知識や思いが大きく変わった。今までは関わりを極力持たないように振る舞っていたと感じる。
37. 子供が生まれてから、会社と家族を両立させるために、仕事の仕方を考えさせられた。それまでは、仕事の段取りを深く考えずに行ってきたが、限られた時間の中で仕事を進めるためには、いかに効率よく仕事を進めるスケジュールを日々考えることとなった。これは、今の仕事の仕方に強く影響を与えている。
38. 子供が生まれた時、しっかり育てないといけないと思った。
39. 子育て 聞く力と多様性を認める思考
40. 仕事で電気料金の集金業務を担当し、支払いが滞っているお客さまに何度となく騙されたとき、人は信用できないものだと感じた。
41. 仕事
42. 昨年、実父を亡くし名実共に家長となり、責任の重さを実感し家族の将来を以前よりより真剣に考える様になった。
43. 妻の死→仕事に対するやる気がなくなった。
44. 妻と子供達と一緒に夕食が出来ない平日の生活だった頃、「こんな生活、人生なんて意味がない」と云われた。仕事と家庭のバランスを整える様、仕事を割り切った。
45. 妻が大病で生死をさまよった際、仕事と家庭の両立というものを深く考えさせられた。
46. 妻がガンで手術した。家族に対するいたわりが必要と思った。米国で駐在員として働いた。自分の意志で仕事のやり方は変えられると思った。米国で駐在員として働いた。家族

<p>を護るために自分は必要と感じた。出世がなくなると自覚した。人生の意義を考え、自分なりの答えにたどりついた。学生時代に一風かわった挑戦をしてやりとげた。人生はやればできる、自分は大丈夫と思った。父親が死んだ。人生には終わりがあると自覚し、父の生き様をかみしめ、自分の生きざまも遂げるべきと思った。</p>
<p>47. 今年になって入院、まずは健康である事で仕事、私生活が充実できると感じる様になりました。又、部下の心身の健康にも気を配る様になりました。</p>
<p>48. 今まで知らなかったことに気づかされたこと。常識だと考えていたことが、実は非常識であったことに気がついたこと。自分が置かれている環境によって物事の捉え方が異なることを学びました。</p>
<p>49. 今の時代には合わないことですが、若い頃、早く帰りたいと常々考えながら山のような残業をしていた時、5歳上の先輩からの一言「一日は24時間あるぞ」この言葉を聞いた時、自分のあまさに気付かされました。その時から仕事に対し時間を惜しまず働けるようになりました。今、それを言ったらアウトですが。</p>
<p>50. 高校入学時、ラグビー部に入ったことが大きな出来事である。以来私の人生の多くはこのスポーツにささげられたし、仲間を得たり、就職先もこの競技を続けるために選んだ。ラグビーがなかったら今の私はないと言える。</p>
<p>51. 考え方が変わった点として、現在は元部署に戻りましたが一時期他部署へ異動となり、他社情報収集や多くの講習・講演会等に参加し、広範囲に視野が広がり、ものづくり、設備づくりの考え方を知り、知識の幅が広がった。</p>
<p>52. 現部署に配属されて10年目に、いきなり大きなプロジェクト業務を担当し、かつ海外に出向して外国人を相手に日々、悪戦苦闘を重ねていた。それまでの10年と全く違う業務内容、担当分野で、仕事の一連の流れも判らず、部下もいなかった自分にとって、仕事の進め方、必要な知識、マネジメント力等、全ての面で成長を実感している。現在の会社生活において、全ての基礎がこの期間にて修得され、どんなにつらい事でも、乗り越えられると精神的な支持にもなっている。</p>
<p>53. 現在の会社に転職した際、仕事を進める上で、人間関係が重要であることに気付き、人間関係を築くような動きをとるようになった。</p>
<p>54. 元気だった人との別かれ。自分自身に重ね合わせて考えて本当にこれで良かったか？</p>
<p>55. 結婚をして子供が生まれた時に、頑張らないといけないと思った</p>
<p>56. 結婚で人生プランが大きく変わった。</p>
<p>57. 結婚：自分ひとりではない、ひとりの考えだけではダメと思うようになった。子の出生：これまで以上に家族を養う責任感が大きくなった。入院：網膜剥離で入院・手術。仕事よりも健康が第一である意識が強くなった。</p>
<p>58. 結婚：自分1人の人生設計→家族での人生設計（特に50才以降の働き方、生き方（含ロケーション）等々）。</p>
<p>59. 結婚、出産。</p>
<p>60. 結婚、子供の誕生と成長のライフイベント。仕事と生活、生活の中での各行動の優先順位や、それぞれに費やす時間割合が変わって来た。子供の成長と成功が自身の喜びや張り合いにもなっている。仕事の面では特になし。強いて挙げれば思い描いていた様な昇格や異動による、自らの枠をひろげる業務機会に恵まれなかったこと。振り返れば若い頃やマネジメントの職に就いた後は特に「減私奉公」努めて来たが、報われた感が小さい。徐々に「私」を大切にするようになって来た。</p>
<p>61. 結婚、子供が生まれた時。1人での生活から家族ができた事で家族中心の生活となった。</p>
<p>62. 結婚、子育て。自分一人でなく家族を守る事、家族の意見を聞いて行動する事を学んだ。</p>

63. 業務内容変更（設計実務→設計品質 TL→設計 TL）：設計実務を離れ、品質 TL となった事で、グローバル QMS や、社内ルール等の理解が深まり、又、品質関係の人脈ができた事で、設計実務（TL）復帰後の役割、業務進捗に良い影響（仕事の判断、進め方）があったと思う。
64. 業務アイテムによって、関係部署や担当者が変わりますが、新しく交渉をもった人の、知識や考え方、行動力に刺激を受け影響された。
65. 業種が変わった時。広い視野で見ることができた。
66. 急激に考え方が変わった出来事は無く、結婚、職種異動、上長の異動により、少しずつ物事を幅広く見ることができ、前向きな考え方に変わってきた。生き方に影響を与えた出来事は思いあたらない。
67. 技術職から、管理部署への異動。会社組織、社会情勢について考える様になった（ストレスを溜め込む様になった）。
68. 管理職へ昇進した事。他部署を含めた会社全体の利益を考えるようになったが、自部署の部下を守る場合に考えが板挟みになる。
69. 海外赴任時に、日本的な考え方が通用しない事、日本人が外国人からどの様に見られているかを実感し、各国の文化、国の成り立ちを考えつつ、自分達がどの様に行動すべきか考えさせられた事。
70. 海外赴任した時に今までやった事のない仕事まで任されました。忙しく、多くの仕事があり、推測による報告をした時に、上司から指摘され、正しい報告の重要性を学ぶ事が出来た。
71. 海外赴任したとき、海外の人の考え方、生き方が今まで狭い日本しかいなかったのでのんな考え方があるのだと思った。
72. 海外赴任、業界以外の人とのコミュニケーション、優秀な直属上司との出会いやコミュニケーションを通じてのんな考え方、いろいろな性格など、いわゆる正論も見方により見え方がいろいろ変わるということ。
73. 海外駐在。仕事面も家庭についても、考え方に幅がもてるきっかけとなった。
74. 海外駐在、文化・言語が異なる部下や上司・同僚たち、専門家などとリストラ等の難しいPJをリードした。相手を納得させることの重要さやリスペクトし合える人間関係の指導など、今の仕事の基礎となっている。
75. 海外駐在、視野が広がった。
76. 海外勤務経験。自分について見つめ直すきっかけとなった。
77. 会社にいると効率化とよく言われるが、地域のコミュニティ活動に参加し、リーダー的存在として活動する中で、全体をうまく動かすには、会社では無駄と思われる様な会議運営も大切と感じた。仕事上でも皆が納得できるまで議論することが、急がば回れで、結局効率的に運営できると考えている。
78. 過去に疾病による欠勤を経験しており、その後、あまり無理をしない働き方に考えが変わった。
79. 課長職についたこと。考え方が大きく変わり、責任が大きくなった。
80. 課長級に昇格できなかった時、いろいろ悩みました。なぜあいつが？なぜ自分がダメ？→単なるうぬぼれであることを痛感。自信過剰。いろいろな本を読みました。その中で、評価は他人がするものであり（あたり前だが）見てくれている人は必ずみているので、自身はしっかり、愚直にやるしかないということを教わりました。その本⇒野村前ヤクルト監とくの書です！絶賛。
81. 家庭を持った事、子供を持った事。それ以前よりも物事をしっかりと考えるようになって

た。
82. 家族を持ったときに責任感を持つようになった。
83. 家族ができたことによる責任感が生まれたこと。
84. 下請け会社に出向（5年）して、工事を一から覚えた事です。考え方が180°変わりました。※自分の甘さに気付きました。
85. 奥さんがプチ家出したこと。当時、毎日帰宅が遅く、毎週土曜出勤だった。子どもが小さく、子育てが大変だった時期で、キレたんだと思う。これ以来、家族第一、仕事は金のためと割り切ることにした。
86. ロケーション変化を供う異動。より多くの方と出会う機会を頂き、自分の考え方に幅が出来た。
87. リーマンショックで大幅に減産になる様な景気悪化局面で組織体制が変わると共に役職も変更になり、それまでの業務への取り組みが否定されると共に業務も変更になった。それまでは同様の業務しか経験していなかったため、他の業務や他の工場など一定のローテーションが必要と強く思った。
88. ベルリンの壁の崩壊 →それまでの世界観のパラダイム転換を強いられた。
89. グループ長になり部下を持つようになったことで、部下のモチベーション維持や人材育成について考えるようになり、人を支える立場として人間的にも成長が必要と感じるようになった。
90. ありました。自分の働いている部（活動している部）の存続の危機に直面した。部長と全国を飛び回り問題を突破した。今ではその部は会社のシンボルとなっている。私のものさしの長さが大きく伸びた。
91. アメリカに駐在した時に妻の存在の大きさをあらためて認識しました。日本にいる間は、子供のことも舍めて「全て自分一人でする」と思っていました。現地で仕事をしているときに、ロクに英語も話せない妻が学校関係のこと、近所とのことなどをやってくれていて、それがあって初めて自分は仕事ができるということを実感しました。それ以来、家族のことをよく考えるようになったと思います。
92. 40才で海外きらいの自分が海外赴任した際、全く日本のやり方が理解してもらえなかった。聞く耳はあるのだが思うようにやってくれない。その時自分の考えが伝えられないのは自分の考えが教え方が悪く、相手によりそってないと感じた。相手のレベルを考え、どうすれば彼らを動かし成果をあげ、一緒に喜び合えるかを考え自分の仕事のやり方を180度変えた。少しずつ意識が変わり成果があがり加速していった。教える立場で相手が成長しないのは自分の教え方を考え直すべきだという考えに変わった。
93. 30代半ば頃、残業1000h超え/年していた時期に、体調を崩し、2ヵ月近く入院する事があった。（ICUに1week）その後、幸運にも体調が戻り、今では元通りになったが、健康、命のありがたさを痛感。その後自己研鑽休暇を利用しボランティア活動に参加したり、趣味を楽しんだり、仕事も含め、生きている時間をより充実して過ごせるように、という考え方にチェンジした。
94. 30歳代末期にオーバーワークが原因で、うつ病を発症し、長期間就業不能となった経験は、ワークライフバランスについて考えるきっかけとなり、体調管理（セルフケア）の大切さに気づき、余暇を有効活用してリフレッシュする方法をみつける助けになった。
95. 30歳の時、異動で他社に出向となった。それまでは1つの工場で設計を行い、ずっとこの工場設計していくのだろうと考えていたが、外に出て様々な経験ができた。10年前また最初の工場に戻ってきたのだが、工場の中でずっといた同僚とはまた違った色を出せていると思う。

96. 30歳の頃、とてもハードな仕事に携わり、身も心も鍛えられました。
97. 2年前に妻が癌になった。発見が早かったので、ほぼ完治したが、身近な家族に初めて死というものを意識させられ、自分の人生についてもっと良く考えなければならないことを認識させられた。
98. 2度の家族帯同での海外生活。・家族との絆・文化・習慣の異なる人との協調性や気づき
99. うつで休業しました。高ストレス、長時間残業では体がついていけない。組合員の残業が規制され、その不足分を管理職が補うやり方では限界がある。無理をしても続かないので、続けるために無理がないように心がけている。
100. ①海外駐在、②社外出向①：日本の良いところ悪いところを振り返る機会になった。家族の大切さ②業務を通してスキルアップを図ることが出来、自分に自信が付いた。
101. 10代後半以降、考え方や生き方のベースを大きく変える様な出来事に思い当たるものはありません。強いて言えば幼少期に身をもって学んだことで、嘘をついてはならない等、基本動作が身につく、それがベースとなり現在に続いていると考えています。
102. 100年に1度の改革期と言われながら、部長室にほとんどリーダーシップを取る気は無く、10年後のこの会社の未来が心配となった。転職、早期退職を真剣に考える様になった。
103. ・労災(感電)...安全に対する意識が高くなった。・海外旅行...海外への旅を繰り返して行くうちに、世界には色々な考え方を持った人がいるということを感じて来て、人の考えを否定するばかりではなく受け入れられるようになった。また、日本は過剰なサービスが当たり前となり感謝する心が薄れて来ているように感じるため、自分自身は感謝する心を大切にしていきたいと思うようになりました。
104. ・妹の病死、父の他界⇒人生そのものを考える様になった・一昨年よりメンタルにて治療中。
105. ・彼女に最初にふられた後に、人に対する接し方が変わった。 ・長男が小さい時に、どんなに怒っても、ついて来る姿を見て、自分が小さく思えた。
106. ・転職。カーメーカーから部品メーカーに移る事で仕事内容や収入面等大きな変更がありました。結果として、正解だったと思っています。(当時の同僚の情報と比較し)
107. ・大学時代に言葉の通じない国へ旅行し、不自由の楽しさを体験できた。・青年海外協力隊での途上国の暮らしで生活での許容リスクのハードルを下げると、楽しく生きることができるとが体験できた。このようなことから「なんとかなるんじゃないか」と思えることが増えたと思う。
108. ・大学での教授との出会い：自分の進む道に唯一反対してくれた人物。お会いするまでやりたいようにやらせてもらってきたが、そこで初めてじっくり考えるきっかけを与えてもらった。人生の節目節目で考え、選択していくことを身につけた。・子どもとの出会い：結婚する前に妊娠がわかり、出産に立ち会い命の尊さを身に染みて感じた。そこから夫として、父として人間としての自覚が生まれ、将来を考え結婚1年後に転職することとした。振り返るととても良いタイミングであったと感じている。
109. ・親族の死・震災 →以下の意識で生活するように心掛けている。・すべきこと、やるべきこと、したいことを優先する。・世のため、人のため、自分のためにつくす。
110. ・上司に失敗を報告した際、当然叱責されると思っていたが、もっと重要な事(人命)に目を向けることを指導され、深い教育を学ぶことが出来た。・接客業にとって上司の行動を身近に見る機会が2年間程あり、その献身的な考え方を大いに学びました。
111. ・小学校で3回の転校、中学校で1回、高校で1回、人に対して、ドライなつきあい方が身についた。・進学校の全寮制で、自立を学んだ。・会社の中では、機密上書けないが、

<p>理不尽な対応や合わない上司、合わない職場から、出れないジレンマがあった。会社に不信感を持つ時期が過去にあった。</p>
<p>112. ・仕事で、長期海外出張、海外赴任を経験したこと。言葉が通じない、考え方が異なる、他に頼る人間がいないといった環境の中で仕事をしたことで、自分で考えて行動する習慣が良くも悪くも身についた。</p>
<p>113. ・高校、大学の勉強、受験、体育会での勝負、エンジニアとしての発明、論文を通じての人とのかかわり等、複数のでき事で現在の自分が形成されていると感じているので1つにしぼるのは難しいです。</p>
<p>114. ・結婚、子供の独立等...人生・生活パターンそのものの変化、家庭、家族という新たな場が生じ、仕事と Private のバランス、区別等を考え、実行する契機となった。・海外関係の仕事を担当するようになったこと、海外での単身赴任生活...未知の世界（文化、価値観）を肌感覚として知り、経験し得たこと、自らの持ち合わせていた考え方、視点と異なる“モノ”が存在し、そのなかで社会や仕事が回っている。その様な環境下で、現地の人々と共通の目的を有し、仕事をすすめること、家族と離れ生活すること...自らの視野、考えるポイントの範囲が大きく、多くの切り口から物事を捉えるべきと考える契機となった。</p>
<p>115. ・学歴により、会社での立場が大きく変わることを入社後に感じた。最初から大学で学び他の企業に入社しても良かったとの後悔のようなモノが今でもある。・妻が4ヶ月入院した際に仕事に対する責任から休みをとらず、4才と1才の子供を一人で育て、時に親の協力に対応した。上司・会社側は今までと何ら変わらず苦労もなかったが私自身は辛かった。また身内に無理をさせたと悔やんでいる。それなのに今は退職者が発生したことから、その人のために自らが対応しなくてはならない状況である。家族には自分しかいないため、仕事は人に任せるべきと今は考え、その時の行動は特に会社での評価となっているわけでもなく反省している。上司となった今、部下の子育てや介護に関わる退職はバックアップしたいと考えるようになった。</p>
<p>116. ・海外駐在→自部門のことだけでなく、会社全体のことを考えるようになった。→家族の時間が増え、会話の絶えない家族となった。</p>
<p>117. ・海外拠点の現地ローカルメンバーと TV 会ぎの時、相手のローカルとはなかなかミーティング日程が合わなかった。家族、イベントを大切に早く帰る事が多かった。・自分も60 or 65 才で会社を離れる。その時から自分の家族中心と言っても手遅れと思い、できるだけ家族のとの時間をつくるようになった。</p>
<p>118. ・プロジェクトのサブリーダーを若い頃、担当した際は責任とやりがいを感じ、成果を出す為、頑張った。・昇格した時、一段高い目標を持つことを心掛けた。</p>
<p>119. ・Do する仕事のみならず、ある上司より付価値をつけていくことの重要と悟られ、視点の重要性を学んだ。・三十代で同グループの方が自殺し、何故救えなかったか？自問自答し、仲間意識と相談の重要性を学んだ。・部下の評価する立場になって、改めてメンバーをよく観察し、個性の理解と適材適所を学んだ。</p>
<p>120. ・30 才代：あるセミナーに参加し、自分のことが好きになった。・40 才代：自ら希望し TPS 道場に入学することで、仕事の仕方を覚えた。結婚して、その気がない人にわかってもらうことが無理なことがわかった。離婚して、自分の今後の生き方について良く考えるようになった。</p>
<p>121. ・2011 年の東日本の災害、家族を優先するべきだと強く考えるようになった。・2008 年のリーマンショック、会社は不条理なものだと思ふようになった。</p>
<p>122. ・(公益性の高い会社であるため) 社会人となった時、公平であることの重要さと難しさを感じた。・部下を持った時、部下育成のために自分を律することの重要さを認識した。</p>

ルール遵守の大切さ。自問自答するクセがついた。

123. 「がん罹患」・無理をせず、出来る事を出来る時にする。・自分（の健康）ファーストに考える（まず考えてみる。）「子供のうつの症状」・家族を犠牲にする様な働き方の否定。・「がん罹患」体験と合わせて、家族中心の考え方。